

寛永諸家譜

平氏十九冊之内
高棟流

76

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186 ('78)		
函號	76	1	



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





極極

寛永諸家系圖傳

平氏

高棟流

極極

● 高棟王

惟範

源之位

中納言

右大將

民部卿

淺草文庫

時望ときもち

正三位 中納言

真村まむら

民部少輔 正四位下

親信ちかぢん

冬儀 正三位

行義ゆきぎ

式部守 正四位下

範圓のりた

伊豫守 正四位下

經方つねかた

民部大輔 正五位下

知信

少納言

後白河下

信範

兵部卿

正三位

信實

兵部卿

宗清

源平兵部

平治二年二月九日宗清尾列

京師にありし時不破乃國より

於朝の約ありしを以て

六波羅より兼向と同日信實於朝

をみて其のまにありしを以て

信實と宗清とを以て

池の禪尼をよび重盛頼感をたの
清盛を懐じ清盛のちをま守家清
再之池の禪尼をよしのとまを成り
故に清盛やむと成得て是
をゆりし

元暦二年三月十日長門國赤松
備前檀浦よりして源平お戦ひ
平家敗れ一族建滅亡とせり
頼朝池の大納を頼感をよび家清を

まよく家清おしらく今をり成
あゝいさんとよび義をたぬあ
かゝてのて梓とておと伊賀
酒におしよふく山根小隠時
頼朝友九郎感長をよび家清の許
ふいそよつ伊別河孫那山田那
四之十之村を家清の孫に感長家清
了りおしよていんく成り是老伊の
地よと成りよく成り見く居家成

方りかまふとふ宗清にせられ
て松極の一枚を折地りり此枚書
茂せば草席を上げ地りかまふと
いつら翌年松極の一枚大い敷
く花のきら宗清甚ふれ成奇
なりやとそれらち和弁を誂松極
をりく氏と寸花のありい
松極の野りあみはる花を
我りよ東城いふる

宗俊

平次

清正

南と号と 平次

宗成

平と号と 勝徳と号と

宗貞しゅうてい

孫太師

宗治しゅうぢ

右大臣

宗康しゅうかう

刑部

宗貞しゅうてい

市助

宗高しゅうかう

右大臣

法名道雲

清辰しゅうしん

下野

清重 きよしげ

修理進 しゆりのえ

宗四 むねよ

三左衛門 さんざゑもん

宗安 むねやす

五左衛門 ござゑもん

法名道昌 ほつなみちまさ

宗和 むねわ

市物 いちもの

法名天賦 ほつなてんぷ

宗家 むねいえ

梶右衛門尉 かぢゑもんゑい

大永年中 たいえいねんちゆう 將軍源乃義極 しやうげんみなもとよしのり 瑞仁 みづひと

号 ななめ 祢 ね 捕 とら 手 て 倭 やまと 笑 わら 四 よ 名 な 守 まも 心 こころ

時 とき 一 ひと 族 ぞく 仁 ひと 平 ひら 氏 うぢ 乃 の 孫 まご 魔 ま 小 こ

志しかりし寸屨あし我し宗家名部お捕
と村おれよものして敵兵大り敷
と後兵部お捕り子流落と家た又
あしあつものして悔したび根植氏
とお我宗家宗能あをを遊撃仁
が兵利をうしあし敷をとも後宗家
遠列原野をうしあして死と
法名喜樂

宗能

市胞

天正九年宗能清廣をむしりく之列
りしついで

大権現しにあらなりていらく伊賀國
乃兵士皆ふ伊列を能くくどよ
あしあつものして悔したび根植氏
佐長よあしあつものして悔したび根植氏
あしあつものして悔したび根植氏

為し志しき人疑心有る一水も

大指環の信り我信長也交を拘り

書成兵士にけり寸へ寸を

信長一属一命を守り我

属せんも右成之列より信長

このまゝ公成より宗徳清廣

信列よか

大指環乃狗命と兵士等よ信長也

な成信長一属せも信長共成

信列の兵士を村捕り信長宗徳清廣

免列よ

大指環より志しき人

清廣

之く兼

安長八年狗命より信長

城水矢倉南門にて取れ書成に

同十九年大坂陣の中より信長

教り列せど松平大將の志
為命を
うけそむりて沛使を清廣に
大將に
池大坂勝山より
屢鉄炮を放ち歎兵着千
寛永六年八月廿二日死す
法名宗伯

宗次

之之通

實の宗純の子なり清廣書以て子とす
元和八年清廣と同日死す
清廣 為命よりして沛書をつとむ
歳とてに八十餘勅号よりそとむ
了と斗大飲頭をり
達とみれよるて宗次を
家督を継いで清廣よりかたり伏見
沛書を以てし
為命よりして

宗雄

山口後河守高井作左衛門と伏見松丸
に極楽橋の御書と伝ふ
寛永二年二条乃城西門の書と伝ふ

指之巻

寛永十一年

將軍家を添へてその内

同十九年本多義作より傳へて

御書院書を伝ふ

利宗

牛之物

寛永十八年

將軍家を添へてその内

宗武

忠公節

家乃致いえのぢ
之頭このかみ左巴丸ひだりばまるの内うち二ふた川がわ

宗尊むねたか

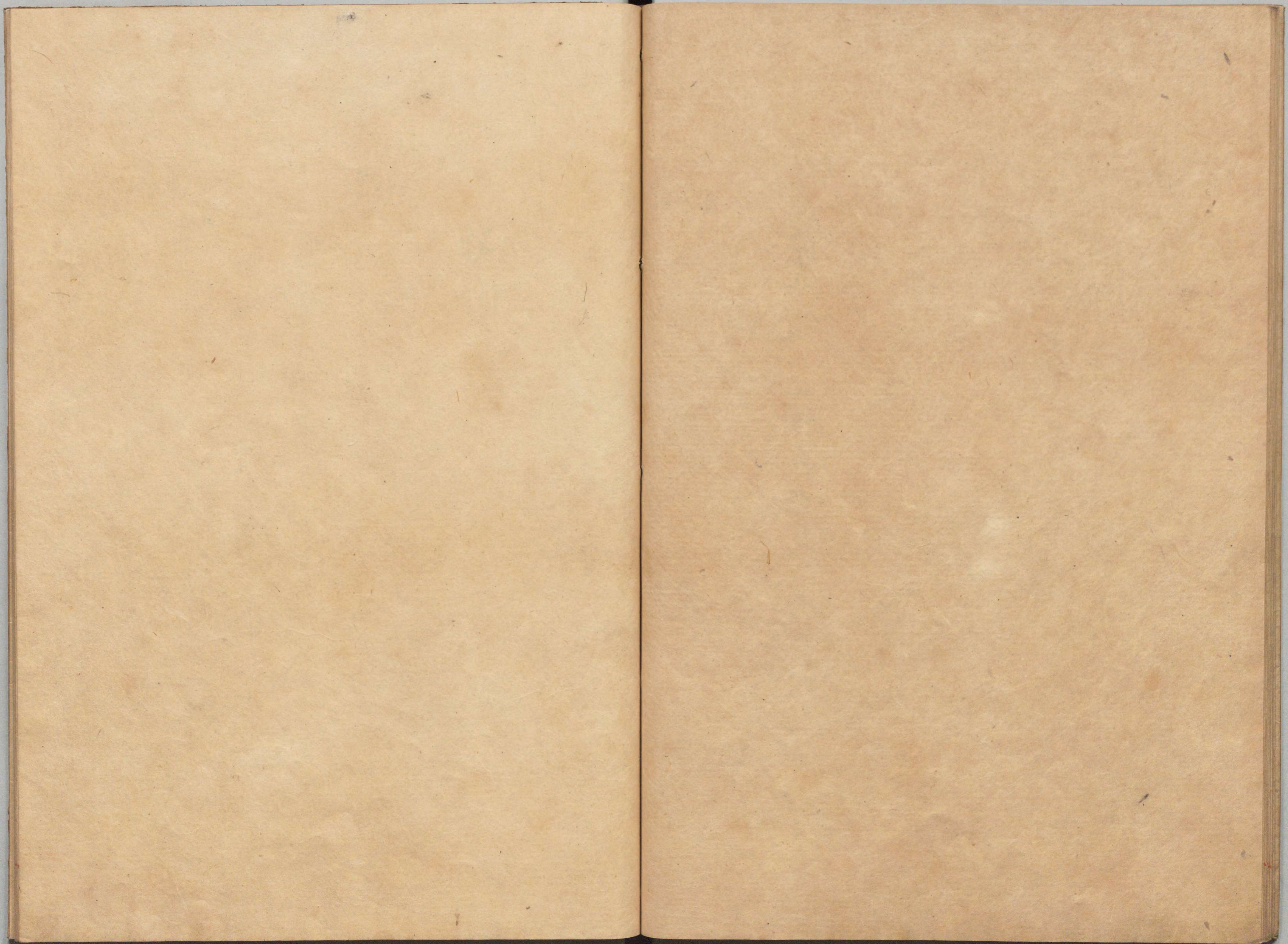
六三郎むつさぶろう

義清よしかよ

五郎八ごろうはち

清長きよなが

清九郎きよくさぶろう



柘植つげ

● 菓くだ

宗左衛門

生國いづ伊い候け

宗右むね

甚八郎

生國いづ日ひ多た

大指おほさし現いま下した流りゅう之の身み之の末すえ川がわ

天正十二年五月亦又白死年四十
二歳 法名真鉄高令

政蕃 まさひら

小丸巻 中園遠江

大指現をよび

右徳院殿

將軍家より此之をよびし

寛永十八年四月朔日死年六十八歳

法名冬宗道無

宗忠 むねただ

甚古巻 中園武蔵

將軍家より此之をよびし

宗久 むねひさ

清太史

寛永九年八月廿二日

將軍家子臣之孫てまのり

家乃紋巴也丸也内二

● 行正

織田と曰部 尾州春田邦部學傳より
天文七年の病死二十三歳

柘植

正俊

織田之苑 後よ改めて柘植平太助と

大権現より謁し奉りて其の事川内
同十五年後存し作し勅仕し
其の家

元和二年より

右連院殿より其の事川内

寛永八年沙使番となる

同九年より

將軍家より其の事川内

召し奉りて長崎の奉行を以て

正直

右連作 中四回

参長十六年九歳より

大権現より謁し奉りて其の事

元和五年より

右連院殿より其の事川内

寛永九年より

將軍家より其の事川内

心弘

平吉兼 中国後河

寛永十年

將軍家下之

家の紋 左巴

● 牙地こゝろ

振植つげ

ヶ國伊候いけ

大指規伊候いけ 候け をす 過す たま へと 是は 候け

政次せいじ

九く 在ざい 奉ほう 射しや ヶ國けこく 向むか 候け

右陣院敵りしに之をくまひる

政宣

永十郎 中園武苑

寛永八年大坂沙番を以て

翌年大坂城中よりをひくを

歳二十 法名宗三

重次

虎熊 中園回前

寛永六年

將軍家より謁しそそりて父乃

道治を以て領す

家乃致 丸内より之

